昭和天皇記念館の大規模刷新・維持事業

――昭和百年記念事業へのご支援のお願い



伊吹文明
いぶき　ぶんめい
昭和聖徳記念財団会長
元衆議院議長

財団の設立と昭和天皇記念館の建設

昭和天皇は、御在位六十有余年の間、多難、激動の世にあって、言い尽くし難いご苦労をされました。立憲君主制の戦前においては、日米間の緊張の打開に苦心され、終戦にあたっては国民の苦難と国土の荒廃を憂慮され、最後はお立場を超えて終戦のご聖断をされたのは、ご存じの通りです。

特に戦後は国民統合の象徴として日本全国を巡幸され、また、数多くの行事へのご臨席や一般参賀等を通じて国民と親しく接し、わが国の復興と発展のために国民を励ましていただきました。

そうした昭和天皇の公平無私なお人柄や、仁慈のお心、真摯誠実なお姿に、日本国民は深い感銘を受けました。そのご仁徳を末永くしのび、語り継ぎ、周知することを願って、平成4(1992)年に昭和聖徳記念財団が設立されました。当財団が運営する昭和天皇記念館は、経団連をはじめとする経済団体の呼びかけなどもあり、企業・団体・個人など各界各層からお寄せいただいた浄財を基に、平成17(2005)年、昭和天皇の武蔵野陵にも近い国営昭和記念公園内に開館されました。以来、宮内庁などの協力を得て、昭和天皇、香淳皇后のご遺品やお写真、ゆかりの資料等を展示し、国民と共に歩まれた昭和天皇のご生涯を紹介してまいりました。天皇陛下をはじめ皇族方もしばしば来館され、入館者はこれまでに延べ35万人に達しております。

展示内容を大幅に刷新、幅広い世代にご遺徳を伝える

しかし、会館の老朽化に加え、時代の趨勢もあり近年は来館者が減少していることから、昭和100年を迎える令和8(2026)年をめどに同記念館を全面的に改装することを計画しています。

最近は昭和レトロブームと相まって、戦後の高度経済成長期の活力や文化興隆、人々の前向きな明るさといったイメージを懐かしく振り返り、話題として取り上げる場面をしばしば目にします。そうした状況も踏まえ、昭和天皇を存じあげない令和・平成の若い世代や訪日外国人など、多様かつ幅広い世代の方々にもインパクトがあり、わかりやすい展示内容へと大幅に刷新する予定です。

これにより、昭和時代の大部分を占める戦後のわが国の復興と繁栄、そして平和で穏やかな時代を画された昭和天皇のご遺徳を正しく後世に伝え、多くの人々に勇気と感動を与える記念館となることを目指しています。

大規模刷新・維持事業へのご支援・ご協力のお願い

本事業は、広く寄付金を仰いで必要な資金を調達すべく、当財団内に募金委員会を設けて準備を進めています。経団連の会員企業・団体をはじめ各界の皆さまには、記念館建設当時にも多大なご支援を頂戴しましたが、今般の大規模刷新にあたりましても、ご理解・ご協力を賜りますよう、切にお願い申し上げます。



昭和天皇記念館
https://f-showa.or.jp/museum/

昭和天皇をお慕いして



昭和天皇記念館募金委員会会長
経団連名誉会長
キヤノン会長兼社長
御手洗冨士夫（みたらい　ふじお）

私が初めて昭和天皇のお姿に接したのは、戦後の全国巡幸で私の郷里である大分県佐伯市に行幸された時でした。駅前の広場には佐伯市および、近隣の市町村から集まった数千人の市民が参集し、付近の小中学校からも多くの生徒が参加しました。当時中学２年だった私は、最前列でご尊顔を拝することができました。昭和天皇がご到着されると、万歳三唱の声が響き渡り、昭和天皇は帽子を高々とお振りになられました。その威厳に満ちたお姿を間近に目にした私は心の底からの感動を覚え、多くの人々は涙をこぼしていました。

後年、私が社会人となり米国に滞在した折、マッカーサー元帥夫人と親しく会話する機会を、幾度か持つことができました。夫人はマッカーサー元帥から「昭和天皇はとても立派な紳士だ。自分はどうなってもいいので、日本国民の生命、生活を守ってほしいというお気持ちに、私は強く心を打たれた」と何回も聞かされたと明かされました。私は、昭和天皇に対する尊崇の念を改めて強くするとともに、日本人であることを誇らしく幸せに感じました。

今般の昭和天皇記念館の整備は、共に昭和を過ごした方々のみならず、若い世代の皆さまにも、これからを生きる道しるべとなる大変意義ある事業です。各位のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。